

北鹿新聞 令和7年12月27日掲載



製作中の神殿を山城会長に披露する学生たち
(秋田職能短大)

本年度の会場へ

アメツコ市は会場を転々と移動して開かれていたが、1972年に市、観光協会、商工議所が主催して大町が会場となつた。神殿は86年に大館青年会議所が寄贈。当時を知る石川建築の石川成社長によると、「会場には雪像の神殿が設置されていたが、毎年造るのが大変ということで、杉の間伐材で製作して贈った」という。

神殿はアメツコ市当日の朝、業者に依頼し、大館神明社境内からユニック車を使つて会場に運び、クレーンで慎重に設置する。観光協会は

大館市の冬の風物詩「大館アメツコ市」の会場に設けられる神殿を秋田職能能力開発短期大学校(中村雅英校長)の学生が製作している。老朽化が進み、市観光協会から相談を受けて昨年度、試作した。本年度は正式に製作の依頼があり、2年生5人が5月に着手。屋根などを取り外すことができ、運搬や設置作業を省力化できる神殿の完成が近づき、17日に関係者が製作現場を訪れた。

大館アメツコ市

老朽化進み
観光協が依頼

小型軽量で設置省力化

職短生が神殿製作

「老朽化が進んでおり、更新のタイミングでコンパクトにして設置作業を省力化したい」と昨年度、同短大に相談。住環境科の中田智大・能力開発准教授の指導で学生が試作した。

本年度は同科の5人が卒業研究にあたる総合制作実習で5月から製作を進めてきた。新しい神殿は屋根までの高さが約3m、建物部分の横幅が2メートル65cm、奥行きが1メートル84cm。これまでの神殿より一回り小さく軽量化を図った上、運搬しやすいように屋根や壁などパーソナルに取り外せる造りとなっている。

中田准教授によると、試作品の図面を参考にしながらも、見た目のバランスやさら

に軽くするために柱を細くするなど改良して一から造り上

げた。くぎは極力使わず、学

生は「多少の誤差でそれが生じるので大変だった」と話す。

残る作業は屋根と扉の取り付けで、班長の西田樹さんは「みんなで意見を出し、解決しながら造ってきた努力の結果、地域の伝統行事に形として残るものづくりに携われてうれしい」と完成への意欲を見せた。

同短大を訪れた観光協会の山城久和会長は「耐久性と運びやすいものをどの依頼通りで、雰囲気のある神殿ができる」と感想。来年2月のアメツコ市会場に設置するのが楽しみ」と感謝した。

来年1月14日に同短大で、完成した神殿のお披露目会を予定している。